

兵庫県南部大地震 記念の日 追悼礼拝次第

日時 2022年1月17日(月)午後6時から
会場 オンライン・ライブ配信(YouTube)
主催 日本基督教団 兵庫教区
配信協力 小栗献(神戸聖愛教会)



礼拝ライブ配
信用QRコード

司式 上内鏡子 (神戸イエス団教会)

奏楽 松井恵子 (神戸聖愛教会)

前奏	“Antienne” (Eugène Gigout)	奏楽者
招き	エレミヤ書 31 章 9 節 a～b(p. 3)	司式者
告白	被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白 (p.4～5)	一同
黙禱		一同
うた	こも神のみくになれば (『讃美歌 1 編』90 p.6)	一同
祈り		司式者
うた	はじめの一步 (詞 新沢としひこ・曲 中川ひろたか p.7)	一同
聖書	ルカによる福音書 19章1～10 (p.8)	司式者
説教	『人が変えられる場所』 小林よう子 (八戸小中野教会)	
祈り	1月17日 人と自然の共存を祈る(p. 9)	一同
うた	主が受け入れてくださるから (『讃美歌21』 542 p.10～11)	一同
終禱		説教者
後奏	“O wie selig seid ihr doch, ihr Frommen” (Johannes Brahms)	奏楽者
報告		

招き

かれ な かえ く
彼らは泣きながら帰って来る。

かれ なぐさ みちび
わたしは彼らを慰めながら導き

なが そ い
流れに沿って行かせる。

かれ みち い
彼らはまっすぐな道を行き、つまづくことはない。

(エレミヤ書 31 章 9 節 a~b、『新共同訳聖書』)

告白 被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白

わたしたちは、地震と被災に関わる経験を通して示さ

れた、試練と恵みの神の働きを信じる。

わたしたちは、被災が一様でなく極めて多様で、それぞ

れに固有の生活体験であることを知る。しかし、その個々

の生活に働かれる神の臨在を認識した。そして固定化し

た福音理解、感性と想像力に欠けた信仰生活が厳しく

と問われたと信じる。

わたしたちは、非常時の中で教会の地域社会への関

わりと参与、その日常性のあり方を問われた。被災の

現実から教えられたのは、隣人への関心、関係の豊かさ

を生きることであると信じる。

わたしたちは、大地震という未曾有の出来事を経験し

た。おびただしい死を前に圧倒されながら、悲しむよりほかに、
げんじつ む あ たいせつ し どうじ
ない現実と向かい合うことの大切さを知った。同時に、イエ
ス・キリストにおいて歴史に啓示された神は、被災のただ
なか りんざい しん
中にも臨在されていることを信じる。

わたしたちは、現実の苦難の中にある生命の営みと、そ
で あ なか かみ お しん しんこう
の出会いの中にこそ神は居られることを信じる。その信仰
み ち ふ わ ことば つむ
によって未知のものを踏み分けつつ言葉を紡ぎだしていく
ふくいんせんきょう しん
ことが福音宣教と信じる。

わたしたちが被災の現実の中で、『地域の再生なくして、
きょうかい ふっこう あゆ かみ まえ
教会の復興はありえない』として歩んできたことが、神の前
た しんこう おうとう こくはく
に立つわたしたちの信仰の応答であると告白する。

アーメン

うた こも神のみくになれば (『讚美歌1編』 90)

This is my Father's world
Maltbie Davenport Babcock, 1901

TERRA BEATA
English Traditional Melody

♩. 92 こもかみのみくになればあ
めつちみうたをうたいかわしい
わにきぎにそらにうみにた
えなるみわざぞあらわれたる アーメン

詩 104:34

1

こもかみのみくになれば、
あめつち御歌をうたいかわし、
岩に樹々に空に海に、
たえなる御業ぞあらわれたる。

2

こもかみのみくになれば、
鳥の音、花の香主をばたたえ、
あさ日、ゆう日は榮えにはえて、
そよ吹く風さえかみをかたる。

3

こもかみのみくになれば、
よこしま暫しはときを得とも、
主のみむねのややに成りて、
あめつち遂には一つとならん。

日本基督教団讚美歌委員会編
『讚美歌』(1954)より複製

うた はじめの一步 (新沢としひこ 作詞 中川ひろたか 作曲)

C G7 C C7 F G7 C C7

1. ち い さ な と り が う た っ て い る よ
 2. し ん じ る こ と を わ す れ ち ゃ い け ない

F G7 C Em Am D G7

ほ く ら - に - あ さ が お と ず れ た よ - と -
 か な ら - ず - あ さ が お と ず れ る か - ら -

C G7 C C7 F G7 C C7 F G7

き の う と ち が う あ さ ひ が の ぼ る か わ の - な -
 ほ く ら の ゆ め を な く し ち ゃ い け ない き っ と - い -

C Em Am Dm G7 C F G7 C

が れ も か が や い て - い る は じ め の い っ ぽ あ し た
 つ か は か な - う は ず だ よ は じ め の い っ ぽ あ し た

F G7 C F G7 C Em Am D7 G7

に い っ ぽ き ょ う か ら な - に も か も が あ た ら - し
 に い っ ぽ き ょ う か ら な - に も か も が あ た ら - し

C F G7 C F G7 C

い は じ め の い っ ぽ あ し た に い っ ぽ ゆ う き
 い は じ め の い っ ぽ あ し た に い っ ぽ う ま れ

F G7 C Em Am F G7 C

を も っ て お お き く い っ ぽ あ る き だ せ
 か わ っ て お お き く い っ ぽ あ る き だ せ

聖書 ルカによる福音書 19章1～10節

¹イエスはエリコに入り、町はい まち とおを通っておられた。²そこにザアカイひとという人がいた。この人は徴税人ひと ちょうぜいにんの頭で、金持ちかしら かね もであった。³イエスがどんな人か見ようとしたが、背ひと みが低せ ひくかったので、群衆ぐんしゅうに遮さげられて見るみことができなかつた。⁴それで、イエスを見るみために、走はしって先回りさきまわし、いちじく桑ぐわ き のぼの木に登のぼった。そこを通り過ぎとお すようとしておられたからである。⁵イエスはその場ば所しょに来ると、上うへを見上げて言いわれた。「ザアカイ、急いそいで降おりて来きなさい。今日きょうは、ぜひあなたいえ との家に泊とまりたい。」
⁶ザアカイいそは急いそいで降おりて来きて、喜よろこんでイエスを迎むかえた。⁷これを見みた人ひとたちは皆みなつぶやいた。「あの人ひとは罪つみぶか深い男おとこのところにい やど行いって宿た あをとった。」⁸しかし、ザアカイは立たち上あがって、主しゅ いに言しゅった。「主ざいさんよ、わたしは財産はんぶんの半ます分ひとびとを貧いしい人々ひとびとに施ほどこします。また、だれかから何とかだまし取とっていたら、それよんばいを四かえ倍いにして返きょうします。」⁹イエスは言いわれた。「今日きょう、救すくいがこの家いえを訪おとずれた。この人ひともアブラハムこの子こなのだから。
¹⁰人ひとの子こは、失うなわれたものさがを捜すくして救きうために来きたのである。」

〔『新共同訳聖書』〕

祈り 1月17日 人と自然の共存を祈る

かみ わたし しぜん なか い い
神さま、私たちが自然の中で生き、生かされていることを

かんしゃ
感謝します。

じぶん しぜん なか いちぶ
でも、自分たちも大きな自然の中の一部であって、その

しぜん なか い わす
自然の中で生かされているということをすぐに忘れてしまい

にんげん にんげん ち え ちから い
ます。いつも人間だけが、人間の知恵や力によって生きて

うえ じぶん しぜん しはい
いて、その上、自分たちが自然を支配しているかのように

かんちが
勘違いしてしまいます。

おおじしん じぶん かんが いじょう
あの大地震をとおして、自分たちが考えている以上に

さまざま ささ はげ し え いま わたし
様々な支えや励ましがあつたことを知り得た今、私たちは

しぜん たい ささ なぐさ とも い なかま
自然に対しても、支えられ、慰められ、共に生きている仲間

おほ おも
であることを覚えていきたいと思ひます。

けつ にんげん しぜん しはい
決して人間が自然を支配しているものではないというこ

おほ
とを覚えるために。

アーメン

うた 主が受け入れてくださるから (『讚美歌21』 531)

Help us accept each other
詞 : Fred Kaan, 1929-

BARONITA
曲 : Doreen Potter, 1925-1980

1 主がうけいれてくさるか
2 日のごとくいるれしてみくだよさむるときも
3 うけいれられみてがなあよらむたにらさる
4 きょういもであいがあもとためなられる。

われらのたがいとにうけいれあおう。
きぼうのたみこの場ばにくたくいさりれい主よ。
せいでかあつのみちがにおもとめいだらされれる。
わいけあつみちがにおもとめいだらされれる。

とひもとにをおえらればる主をしがんじよう、
とひもとにをおえらればる主をしがんじよう、
とひもとにをおえらればる主をしがんじよう、
とひもとにをおえらればる主をしがんじよう、

主に あす いる さ れ た ひ と き り と し う て。
 ▶ あ い あ す る こ と が ひ で き り と し う に。
 ▶ か わ れ す す ら え た み こ そ い ひ と や と し の わ ざ。
 わ れ ら 互 い に 受 け 入 れ 合 お う。

(♩=72)

1 主しゅが受うけ入いれてくださるから
 われら互たがいに受うけ入いれ合あおう。
 共ともにおられる主しゅを信しんじよう、
 主しゅに愛あいされたひとりとして。

2 日ひごと苦くるしみ悩なやむ時ときも
 希き望ぼうのみことば ください、主しゅよ。
 人ひとを選えらばず あるがままに
 愛あいすることができるように。

3 受うけ入いれられて新あらたにされ
 生せい活かつの場ばにおおくだされ、
 和わ解かいの食しょく卓たく 共ともに囲かこみ
 交かわす笑えみこそ いやしのわざ。

4 今日きょうも出で会あいが求もとめられる。
 わあみちも
 分わけ合あう道みちが求もとめられる。
 聖せい霊れいを受うけ 新あらたにされ
 われら互たがいにひとつになろう。

ア-メン。

